

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	医学総論	担 当 教 官 名	川島 和彦
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	医学総論		
授業の概要 及び到達目標	現在の医療は、医師や看護師のみでなく様々な専門性が異なる医療・介護スタッフがチームを組み、質の高いサービスを提供することが求められています。そのためには、それぞれの職種ごとに医療総論が教育されてきた以前とは異なり、どの専門職に就くにも医療全体を見渡す視野が必要となり、共通の基礎学問を学ぶ必要が出てきました。医療を理解するには、先端科学のみに眼を奪われるのではなく、思想や政治経済など社会的背景も理解することが大切です。本講義では、あえて統計的な知識の羅列をさけ、こうした背景について繰り返し授業する予定です。初めて医療系の教育を受ける皆さんにも理解しやすいよう平易な講義をする予定ですが、専門職に就く自覚も同時に培っていただければと考えています。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学の歴史～21世紀の医療 2. 災害医療 3. 健康とは何か 4. 死を考える 5. 医療と経済:医療システムを考える 6. 医療安全 7. 精神保健:母子保健～認知症 8. 次世代の医療 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	書名:現代医学概論第3版 著者名:柳澤信夫 出版社:医歯薬出版 参考図書:学生のための医療概論 第4版 著者名:小橋元他 出版社:医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期テスト		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	皆さんは、将来「医療の専門家になる」ということを意識して取り組んでいただきたいと思います		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	音響学	担当教官名	高橋 絵留美/飯高 玄
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	音、音声、音源フィルタ理論、音響分析、声、発話		
授業の概要 及び到達目標	<p>音声も音という物理現象の一種である。この講義を通じて、音という現象に関する基礎知識を学び、「ヒトが話す」という行為について物理的な側面からの視点を持つようになることを目指す。特に本講義では、言語聴覚士国家試験問題を解く上で重要となる音響学の用語について網羅し、実際の国家試験問題に取り組みながら基礎知識を身に付けることを目指す。又、音響学が言語聴覚士の臨床場面でどのような役立つかも、実例の臨床データや音声の交えて学んで頂き、音響分析の基礎の獲得及び臨床での使用の土台作りを目標とする。</p> <p>[到達目標] 本講義では、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①音響学の基礎用語を理解し、その定義や内容について説明できる。</p> <p>②音響学の言語聴覚士国家試験問題の概要を理解し、対応できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音響学国家試験問題の概要(高橋) 2. 時間波形と周波数スペクトル(高橋) 3. 音響管の共鳴(高橋) 4. 音響学とは(飯高) 5. 音声生成の音響理論(高橋) 6. ST臨床での音響分析の実際(飯高) 7. 音声の信号処理①(高橋) 8. 音の性質・周期音や非周期音(飯高) 9. 人の声の音響学(飯高) 10. 音声の信号処理②(高橋) 11. 共鳴・サウンドスペクトログラム(飯高) 12. 音声の音響分析①(高橋) 13. 音声の音響分析②(高橋) 14. 聴覚心理学(飯高) 15. まとめ・国試問題の演習(飯高) <p>上記の講義に加えて音声録音や解析の演習も行う</p>		
準備学習	授業前後、自身の理解度に応じて、STテキストの該当する箇所を確認すること。前講義の資料の復習を行ってこること。		
教科書・教材等	『言語聴覚士テキスト第3版』及び 資料配布		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター)		
成績評価の方法	科目修了試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	講義では、特に、国家試験に出題されやすい内容について理解ができることを目指します。音響学に対して苦手意識を持たれている方も少なくないかと思いますが、STテキストに書かれている内容を把握することで、解くことができる問題も多くあります。何より、問題に慣れることが大切です。諦めず、焦らず、取り組んでいただければと思います。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	音声学 I	担当 教 官 名	古田 功 士
対象学生	1年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	15回
授業のキーワード	音、音声、調音、IPA(International phonetic alphabet)		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要: 音声を記述する意義について学び、IPA(International phonetic alphabet: 国際音声字母)という記号を用いて、実際に音声を記述する手法を学びます。また音声学に関連する音韻論(言語学の一派)についても紹介します。到達目標: 日本語の音声を産み出す発音(調音)について説明できる。またIPAを用いて日本語の音声を記述できる。</p> <p>【実務経験】言語聴覚士として、15年以上、病院における成人領域の言語聴覚療法に従事。言語障害や発声発語障害のリハビリテーションにも多く関わった。また言語聴覚士養成校における音声言語関係の非常勤講師としても10年以上の経験を持つ。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声学の位置 2. 音声学の基礎 3. IPAについて、子音の分類とIPA① 4. 子音の分類とIPA② 5. 母音の分類とIPA③ 6. 音韻論の基礎 7. 日本語の音素・音韻・IPAについて① 8. 日本語の音素・音韻・IPAについて② 9. 日本語をIPAで表記する練習① 10. 日本語をIPAで表記する練習② 11. 音の結びつきについて 12. 表音文字と音声表記について 13. 超分節的要素について 14. アクセントを表記する練習 15. まとめ 		
準備学習	授業前後、自身の理解度に応じて、STテキストの該当する箇所、あるいは或いは教科書のページを確認すること。		
教科書・教材等	教科書:『言語聴覚士テキスト第3版』、『新 ことばの科学入門』 廣瀬肇訳 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	科目修了試験 100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	音声学を学ぶにはご自身での取り組む姿勢も大切です。ご自身の発音やアクセントについて、改めて考えてみると、より知識が定着するようになります。またInternetの動画サイトなども補助資料として紹介していきますので、この学びを楽しんで頂けるとよいと思います。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖学	担当教官名	菊井 由紀子
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	細胞と組織、骨と筋、循環器、呼吸器系、胚葉と発生(鰓弓を含む)		
授業の概要 及び到達目標	<p>解剖学では人間の構造を学ぶ。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①身体の基本構造を理解する。 ②人体の各器官がどのようにできるかを理解する。 ③消化器系・呼吸器系・泌尿器系・内分泌系の構造と働きを理解する。</p> <p>実務経験:1996年より大阪医科大学麻酔科にて研究、臨床に携わる。1997年より堺山口病院にて臨床に携わる。2000年より神戸、京都の専門学校にて学生指導の傍ら付属治療所にて臨床経験を積む。解剖学に関しては、2001年よりほぼ毎年、名古屋大学解剖トレーニングセミナー、杏林大学夏季解剖実習セミナーに参加。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学の学び方 細胞と組織 2. 消化器系 3. 呼吸器 4. 泌尿器 5. 内分泌系 6. 発生学 (鰓弓からできる構造物) 7. まとめ 8. まとめ 9. 期末試験と試験後の解説 		
準備学習	毎回の授業の復習をし、少しずつ言葉記憶を増やしていきましょう。		
教科書・教材等	シンプル解剖生理学		
授業の形式 教育機器の活用	基本的にはホワイトボードを活用して板書しますので自分のノートを作成すること。		
成績評価の方法	期末試験(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	言語聴覚士として活躍するために必要な解剖学の基本を学びます。初めて解剖学を学ぶ方がほとんどだと思いますが、解剖学は決して難しい学問ではありません。人体の構造の巧みさ、生命の素晴らしさを感じ、新しいことを知る勉強の楽しさを味わっていきましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	学習認知心理学	担 当 教 官 名	午道青歩
対象学生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	学習心理学 知覚心理学 認知心理学		
授業の概要 及び到達目標	この授業では、認知に関わる心理学領域である学習心理学、知覚心理学および認知心理学を扱う。臨床場面で出会う個別の事象について、見通しを持って理解するため、心理学の知見や理論を知っておくことは重要であると考えられる。この授業によって期待される到達目標は以下の3つである。①学習、知覚および認知に関する基礎知識と代表的な実験について理解する。②心理学の基礎知識や実験結果に基づいて理解する。③心理学の理論に基づいて、日常場面や臨床場面での現象を説明できるようになる。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習認知心理学の導入 2. 学習心理学① 3. 学習心理学② 4. 学習心理学③ 5. 小テスト・知覚心理学① 6. 知覚心理学② 7. 知覚心理学③ 8. 知覚心理学④ 9. 知覚心理学⑤ 10. 小テスト・認知心理学① 11. 認知心理学② 12. 認知心理学③ 13. 認知心理学④ 14. 認知心理学⑤ 15. 全体のまとめ(定期試験解説) 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	言語聴覚士のための心理学 医歯薬出版		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験 80% 小テスト 20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	国家試験の問題では、学習心理学、認知心理学、知覚心理学に関する専門知識が必要な問題が出題されます。それらを回答するためには、心理学実験の結果やその結果を説明する心理学の理論を理解する必要があります。日常生活で生じることと関連づけることで専門用語も覚えやすくなるかと思えます。ぜひ授業で知った内容を、日常生活での場面と重ね合わせて理解を深めていただければと思います。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	形成外科学	担 当 教 官 名	野瀬謙介
対象学生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	形成外科学 口唇口蓋裂 鼻咽腔閉鎖機能 口腔咽頭癌 再建手術		
授業の概要 及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・形成外科が扱う主な疾患について概要を理解する。 ・創傷の治癒過程を理解する。 ・口唇口蓋裂および類縁疾患についての詳細を学ぶ。 ・口腔咽頭癌の治療, とくに再建手術について理解する。 ・授業では主にパワーポイントを用いて実際の症例写真を中心に提示する。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 形成外科総論 2. 外傷・熱傷・創傷治癒 3. 皮膚外科手技・皮膚腫瘍 4. 口唇口蓋裂 類縁疾患(その1) 5. "(その2) 6. "(その3) その他の先天異常 7. 再建外科 8. 美容外科・その他 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	言語聴覚士テキスト, 配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)			

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	言語学I	担当教官名	正田久美
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	言語聴覚士として必須である「言葉」への理解を深める。臨床現場に役立ち、応用できる言語学の知識を身につけ、公私において自身が使う「言葉」と周囲の人が使用する「言葉」に対し敏感になるだけでなく、それらを分析できる力を養う。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、言語学の概要 2. 第1講:言語の特性 3. 第2講:言語学の対象 4. 第3講:言語の種類 5. 第4講:言語学の諸分野 6. 第4講:言語学の諸分野 7. 第6講:音声学・音韻論2 母音と子音 8. 第7講:音声学・音韻論3 音声学と音韻論 9. 第8講:音声学・音韻論4 音素と弁別的素性 10. 第9講:音声学・音韻論5 超分節素 11. 第10講:形態論1 語彙素と形態素 12. 第11講:形態論2 形態素と異形態 13. 第12講:形態論3 語形成 14. 第13講:形態論4 語彙と文法範疇 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	言語学入門 これから始める人のための入門書 佐久間淳一、加藤重広、町田健 著 研究社 ISBN 978-4-327-40138-2		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験(70点)、小テスト(各10点×3回=30点)		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	聞き慣れない専門用語が多いですが、それらの定義文を暗記するのではなく、具体例を通し、言葉の分析・理解を行ってください。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	言語聴覚障害概論	担当教官名	上羽 悟 他
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士、言語聴覚障害		
授業の概要 及び到達目標	言語聴覚士の役割・多職種との関わりについて学ぶ。 言語聴覚士が関わる様々な障害について学び、言語聴覚療法の流れを知る。 15回の講義の内を通して、言語聴覚士の業務、聴覚障害・成人の言語聴覚障害についての概要を学ぶ。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語聴覚障害について、言語聴覚士の役割とは 2. 「言語聴覚士の業務」、言語聴覚士法 3. 言語聴覚士が関わる場面と時期 4. 関連職種、チーム医療 5. 障害体験、コミュニケーション支援 6. 言語聴覚士が実施する評価① 7. 言語聴覚士が実施する評価② 8. 言語聴覚障害分野の歩み 9. 言語聴覚障害への対応(成人例) 10. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について① 11. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について② 12. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について③ 13. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について④ 14. 臨床における様々な障害と症状および評価と訓練について⑤ 15. 全体まとめ 		
準備学習	予習と復習を行う		
教科書・教材等	言語聴覚障害学概論 第2版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	複数の教官による講義となります。各講義がつながっている事を意識して下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	言語発達学	担当教官名	竹内真理子
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	言語発達 前言語期 語彙獲得 認知発達 社会性の発達		
授業の概要 及び到達目標	<p>「ことばを遣う」ことは、私たち人間の特性の一つである。子どもは誕生後から数年のうちに、基本的な言語能力のほとんどを獲得する。言語発達学は、この子どもたちの驚異的な言語獲得がどのようにしてなされ、そのためには何が必要であり、何が欠かせないのかを理解していく学問である。本講義では、言語発達の理論的歴史から、音声・身振り・語彙・文法、さらに読み書きに至るまでの過程を習得する。 *実務経験:病院、相談施設等で30年以上の経験があり、子どもの言語発達を含めた発達全般への支援・指導、構音障害に対する構音指導、親支援などに携わっている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ことば」のひとつの機能である「音」を理解し、詩を声に出して読み、楽しむ。 2. 言語獲得理論の動き 3. 音声の獲得 4. 身ぶりのことば 5. 語彙の獲得 6. 文法の獲得1 動詞を中心に 7. 文法の獲得2 助詞を中心に 8. 育児放棄事例のことばの発達 9. 障害児のことばの発達 ピアジェの発達論 10. 障害児のことばの発達 11. 障害児のことばの発達 12. 障害児のことばの発達 13. 談話(ディスコース)構造の発達 14. 読み・書きの発達 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	「新・子どもたちの言語獲得」大修館書店 「特別なニーズを持つ子どもを理解する」岩崎学術出版社		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	言語を含めた発達に障害を持つ子どもは勿論、成人の言語リハにおいても、子どもの言語発達過程を正しく理解していることは必須です。毎回の授業をしっかりと聴いて、理解を深めてください。「言語」、「ことば(音声言語)」に興味を持ってください。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	言語発達障害概論	担当教官名	深見真由
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	標準的言語発達 言語発達障害 学習障害 特異的言語発達障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の概要 ①言語発達障害の理解の前提となる標準的発達と発達の基盤、 ②種々の言語発達障害の特性(国際的診断基準・疾病分類を参照)、 ③それぞれの言語発達障害に適した評価と指導・支援体制の方向性</p> <p>到達目標 上記の①②③について基礎的知識を得る</p> <p>実務経験 神経難病・急性期・回復期病棟で6年間勤務</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準的言語発達・言語発達の基盤 2. 評価・検査 3. 知的障害 4. 学習障害 5. 特異的言語発達障害 6. 注意欠如多動性障害/自閉症スペクトラム 7. 脳性麻痺・重複障害 8. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第2版 シリーズ監修 藤田郁代 編集 玉井ふみ/深浦順一 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 (パソコン, プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	日常生活において、幼児の行動・遊び・ことばに注意を向けるように心がけてください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	呼吸・発声・発語系の構造・機能・病態	担 当 教 官 名	末 廣 篤
対象学生	第1学年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	15回
授業のキーワード	発声, 構音, 呼吸, 基礎講義		
授業の概要 及び到達目標	<p>下記の内容につき、系統的な講義をおこなう。</p> <p>①医学に関するの総論講義 ②発声器官に関するの各論講義 ③構音器官に関するの各論講義 ④呼吸器に関するの各論講義</p> <p>実務者経験:2016年より京都大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、さらに2019年より同大学リハビリテーション科を兼任。音声、嚥下、栄養学、頭頸部癌の治療などを専門とする。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学概論 2. 耳鼻咽喉科概論 3. 言語障害 4. 喉頭の解剖 5. 喉頭の機能 6. 喉頭の検査 7. 喉頭の病態 1 8. 喉頭の病態 2 9. 構音器官の解剖 10. 構音運動 11. 構音器官の病態 12. 呼吸器の解剖 13. 呼吸機能検査 14. 呼吸器の病態 15. 授業のまとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学シリーズ 発声発語障害学 (医学出版) ※授業では使用しません。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験のみで判定(合格点は60%以上)		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	言語聴覚領域は非常に範囲が広く、かつ複雑です。神経科学や呼吸器科学、耳鼻咽喉科学などの総論講義で基礎を固めてから、発声・発語に関連する各論講義を行います。特に復習をしっかりと行ってください。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	高次脳機能障害Ⅰ	担当教官名	山下明宏
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	高次脳機能障害、失行、失認、記憶障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>高次脳機能障害の定義および基本的知識について、失語症を除く失認、失行、記憶障害、前頭葉症状などの症状を習得する。</p> <p>*実務経験:実務経験:2003年から2013年の期間内に病院で勤務し、主に失語症・高次脳機能障害・構音障害・嚥下障害に対するリハビリテーションに携わっていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害総論(脳の見方、主症状と背景症状、脳梁離断症候群) 2. 高次脳機能障害総論(回復過程、リハの流れ、症状の見方、国際生活機能分類) 3. 視覚認知の障害、視空間認知の障害① 4. 視覚認知の障害、視空間認知の障害② 5. 特異的な視覚認知障害、聴覚認知の障害、触覚認知の障害 6. 身体意識・病態認知の障害、行為・動作の障害(失行・非失行性の障害) 7. 行為・動作の障害(失行・非失行性の障害)① 8. 行為・動作の障害(失行・非失行性の障害)② 9. 構成障害、記憶障害① 10. 記憶障害② 11. 記憶障害③(健忘症状がある症候群) 12. 認知症① 13. 認知症② 14. 前頭葉と高次脳機能障害(症状・評価・診断) 15. 脳外傷・進行性疾患に伴う高次脳機能障害 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	『高次脳機能障害学 第3版』医学書院, 『失語症学 第3版』医学書院,		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	臨床場面につなげるための基礎知識となるため、予習・復習を行ってください。		

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	失語症 I	担当教官名	木村奈緒
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	失語症 失語症の症状 失語症候群		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要:言語聴覚士にとって、失語症は接する機会の多い障害である。評価・訓練はもちろん、失語症者や周囲の人達への働きかけなども求められる。また、急性期から維持期まで全ての時期にわたっての介入が必要となる。失語症学 I では、失語症の定義に始まり、神経基盤や症状、失語症候群について説明する。実務者経験:一般病院で28年間、急性期から生活期にわたって失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害に対するリハビリテーションに携わった。</p> <p>到達目標:①失語症の定義や言語野の概要を説明できる。 ②失語症の症状や失語症候群について、基礎的な知識を身につける。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 失語症とは(概論) 2. 失語症の定義・原因疾患 3. 失語症の症状1 4. 失語症の症状2 5. 失語症の症状3 6. 失語症の症状4 7. 言語と脳 8. 失語症候群1 9. 失語症候群2 10. 失語症候群3 11. 失語症候群4 12. その他の失語症 13. 純粋型・原発性進行性失語 14. 関連障害との鑑別 15. 全体まとめ 		
準備学習	授業前後の予習・復習。授業の最後に復習シートを配布し提出。Teamsでも挙げていく。成績には加味しませんが自身の復習に役立てて下さい。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 失語症学(第3版) 医学書院 監修 藤田郁代		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	小テスト(2回)20% 定期試験80%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	基礎的な内容ではありますが、1年生後期の失語症学Ⅱ、2年生前期のⅢにつながっていく内容です。実習にはもちろん、STとして従事してからも必要な知識ですので、十分に理解することが重要です。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	小児科学	担 当 教 官 名	森本昌史
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	成長 発達 小児保健 小児の病態と疾病		
授業の概要 及び到達目標	<p>小児の特徴である成長、発達について解説し、特徴がある小児保健、更には小児の病態・疾病について系統的に理解できるように講義を進める。特に言語聴覚領域において重要な分野については重点をおいて解説する。</p> <p>到達目標</p> <p>①成長・発達について理解し、説明できる。</p> <p>②小児保健(乳幼児健診、予防接種、学校保健など)について理解し、説明できる。</p> <p>③小児の病態・疾病について系統的に理解し説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の発達・成長 2. 小児保健 3. 遺伝疾患 4. 神経・筋疾患 5. 新生児疾患 6. 循環器疾患 7. 呼吸器疾患 8. 免疫、アレルギー疾患・膠原病 9. 内分泌、代謝疾患 10. 感染症 11. 血液疾患・悪性腫瘍 12. 消化器疾患 13. 腎・泌尿器疾患 14. 発達障害・事故 15. 小児科学のまとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学 第2版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクターど)		
成績評価の方法	定期試験により評価する。		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	言語聴覚領域に関係する分野に重点を置きながら、小児科学全般にわたって講義をします。小児の言語聴覚の評価の役立つ小児科学の基礎知識が習得できるように積極的取り組んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	心理測定法	担当教官名	陳 暁雪
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	心理物理学的測定法、テスト理論、尺度構成法、調査法、データ解析法		
授業の概要 及び到達目標	<p>本講義では、言語聴覚士にとって必要な心理測定法について学びます。具体的には、基本的な理論や実施方法、測定値の解釈方法などを学び、診断や治療計画に役立てることを目的とします。</p> <p>① 心理物理学的測定法、テスト理論、尺度構成法の各概念が説明できる。 ② 各種調査法の概要と違いが説明できる。 ③ 心理統計学における相関分析、回帰分析、因子分析などの基礎概念が説明できる。 ④ データの平均、偏差、分散、標準偏差を算出することで、データの整理ができる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学測定法の授業ガイダンスと講義概要 2. 尺度水準 3. 心理物理学的測定法 4. 心理検査 5. テスト理論 6. 検査の妥当性と信頼性 7. 尺度構成法 8. 評定法 9. 多次元尺度構成法 10. 調査法の概要 11. 質問紙法とサンプリング 12. 記述統計学 13. 相関分析と分散分析 14. 回帰分析 15. 因子分析 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	配布資料を使用します。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	小テスト40%、期末テスト60%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	心理学の知識はどのように生まれるのを理解するには、心理学測定法は重要な一環です。心理学統計法と測定法の内容は、言語聴覚士の実践には欠かせません。日常生活の例を思いながら学んでいきましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	神経系の構造・機能・病態	担当教官名	木下彩栄 他
対象学生	1年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	神経解剖、中枢神経、末梢神経、筋、機能局在、神経疾患		
授業の概要 及び到達目標	言語聴覚士として必要な神経系の構造・機能・病態について学ぶ。脳神経が障害されたときの症状を理解し、診断や治療につなげるためには、正確な神経解剖の知識が必要である。本講義では大脳から末梢神経、筋にいたる構造や機能を学ぶことで、病態を理解できるように教授する。また、神経系の疾患を診断するための検査技法についても教授し、言語聴覚士が遭遇する神経系の疾患の概要について修得する。本授業で神経解剖を学ぶことで、後期の履修科目の臨床神経学の理解につなげていく。		
講義計画・内容	① 総論、大脳・脳血管の肉眼解剖 (木下) ② 大脳の機能と局在診断(木下) ③ 脳幹・小脳の機能と局在診断 (木下) ④ 脊髄の機能と局在診断 (木下) ⑤ 神経学的診察法 (木下) ⑥ 中枢神経系の画像診断 (石津) ⑦ 脳神経系の疾患(1)脳血管障害 (木下) ⑧ 脳神経系の疾患(2)認知症 (木下) ⑨ 脳神経系の疾患(2)認知症 (木下) ⑩ 神経生理学 (松橋) ⑪ 末梢神経系の解剖 (松橋) ⑫ 自律神経系・筋の解剖 (松橋) ⑬ 電気生理学的検査法(松橋) ⑭ 中枢神経・末梢神経系のまとめ (木下) ⑮ まとめとテスト解説 (木下)		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	病気が見えるvol 7 脳・神経		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期テストで評価する		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	記憶することが多いので、整理して覚えること。後期の臨床神経学の理解のためにも、前期に神経解剖をしっかり習得するように心がけること。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	生理学	担当教官名	高橋 絵留美
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	からだの構造(かたち)と機能(はたらき)、細胞・組織・器官、各器官系のはたらき		
授業の概要 及び到達目標	<p>[授業の概要] 生理学は、からだの機能(はたらき)について学ぶ学問であり、言語聴覚士が携わる領域(言語聴覚、発声構音、摂食嚥下など)を理解する上で、基盤となる。本講義では、適宜、解剖学(からだの構造)についても触れながら、生理学の基礎的な内容について学ぶ。また、授業内容と関連させながら、解剖生理学分野の国家試験問題についても取り扱う。</p> <p>[到達目標] 本講義では、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。 ①からだの機能を細胞レベルで理解し、器官系ごとのはたらきについて説明できる。 ②生理学の知識と言語聴覚士の専門領域との関連について理解し、説明できる。 ③解剖生理学の言語聴覚士国家試験問題の概要を理解し、対応できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. からだの構造と機能の概論、細胞 2. 遺伝とゲノム 3. 組織、骨 4. 体液と血液、免疫系 5. 筋 6. 神経系① 7. 神経系② 8. 神経系③ 9. 神経系④ 10. 神経系⑤ 11. 神経系⑥ 12. 循環系 13. 代謝・栄養・体温 14. 1～13回の振り返り 15. 試験解説 <p>※項目は教科書の章に沿っていますが、学習順序は学習内容により変更しています。 ※上記は、状況により、変更となる場合があります。 ※感覚系の項目は神経系①～⑥の中で取り扱います。</p>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	『シンプル解剖生理学』(南江堂)、その他図解を中心に複数の教材から適宜引用・配布します。神経系の項目では『病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版』(メディックメディア)も使用します。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター)		
成績評価の方法	定期試験のみ		
担当教官から (履修に当たっての 留意点)	本講義で取り扱う内容は、他の専門的・臨床的科目の基礎となりますので、授業には積極的に取り組んで下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	精神医学	担 当 教 官 名	船曳康子
対象学生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	メンタルヘルス、心の健康、精神疾患		
授業の概要 及び到達目標	<p>各発達段階の心理的課題や精神の病について学習することで、精神の病の予防やそこからの回復について必要となる知識と見識を養うことを目的とする。こころの健康に関する個人的・社会的両面のさまざまな問題にとりくむための基本的能力を獲得する。</p> <p>実務者経験:平成8-9年京都大学医学部附属病院、平成9-11年京都市立病院にて一般臨床を行った。海外経験後、平成17年より京都大学医学部附属病院精神科神経科の外来を担当し、平成21年より同助教として一般精神科医療に加え児童青年期・発達障害を専門とする。平成27年より京都大学大学院人間・環境学研究科の教員として授業を行いながら、地域での実務を継続している。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学総論とライフステージごとの特徴 2. 発達とその障害 3. 児童青年期の精神障害と人格形成 4. 神経症など 5. 気分障害 6. 統合失調症 7. 認知症とその他の精神障害 8. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準精神医学／医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	精神医学を学ぶことによって、自身の健康維持、また周囲への配慮や支援を身につけてください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	聴覚障害概論	担当教官名	岸田隆之
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	発達 構造・機能 疾患 聴覚リハビリテーション(成人・小児) 制度		
授業の概要 及び到達目標	<p>聴覚障害とそれに対する(リ)ハビリテーションの全体像をつかむことで、各論の講義に臨むことが必要である。本講義では以下の内容を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害の全体像をイメージできる ・ 聴覚器官の構造と機能がわかることで、疾患の把握や聴覚障害の基本的な評価ができる ・ 評価から(リ)ハビリテーションの大枠を作れる ・ 聴覚補償機器の基本的知識を持つ <p>実務者経験 : 1985年～2000年大阪府立身体障害者福祉センター附属病院耳鼻咽喉科にて臨床検査、補聴器適合等 2017年～ 神戸市障害者更生相談所補装具適合判定</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚の機能、聴覚の発達 2. 聴覚障害とは、聴覚障害児・者の実態、難聴の分類、 3. 難聴児・者のきこえ、難聴児・者とのコミュニケーション、各ライフステージにおける聴覚障害の影響 4. 聴覚器官の構造・機能 5. 聴覚器官の構造・機能 6. 聴覚障害の評価(成人・小児) 7. 聴覚障害の評価(成人・小児) 8. 聴覚障害をもたらす疾患 9. 聴覚障害をもたらす疾患 10. 聴覚(リ)ハビリテーション(流れ、ライフステージ、方法) 成人難聴の聴覚リハビリテーション 11. 小児難聴の聴覚リハビリテーション 12. 聴覚補償機器(補聴器) 13. 聴覚補償機器(人工聴覚器、その他) 14. 制度、まとめ 15. テスト解説 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学(第3版) 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 プロジェクター、CDラジカセ(パソコンは持参)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	できるだけ聴覚障害の全体像が理解できるようにいたしますが、この講義をもとに各論で知識を深めていただければと思います。質問は随時受け付けます。		

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎
授業科目名	内科学	担当教官名	井上 徹也
対象学生	1年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	内科学 病態生理 疾患 診断・治療		
授業の概要 及び到達目標	人体の構造・機能を理解したうえで、内科疾患の病態生理を理解する。さらに重要疾患の診断・治療も理解する。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学総論 2. 呼吸器疾患 3. 循環器疾患(1) 4. 循環器疾患(2) 5. 消化器疾患 6. 肝・胆・膵疾患 7. 血液・造血器疾患 8. 腎疾患・水電解質異常 9. 代謝性疾患 10. 内分泌疾患 11. 自己免疫疾患(膠原病) 12. 神経・筋疾患 13. 感染症 14. 中毒疾患・その他 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	指定教科書及び配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	テスト(100%)		
担当教官から 履修に当たっての留意点			

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	病理学	担 当 教 官 名	杉山 文枝
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	病期のなりたち、炎症、感染症、腫瘍		
授業の概要 及び到達目標	【到達目標】 ①炎症にはどんなものがあるか ②感染症の成因 ③悪性腫瘍と良性腫瘍の違いが分かるように		
講義計画・内容	1. 病因 2. 炎症① 3. 炎症② 4. 感染症① 5. 感染症② 6. 腫瘍① 7. 腫瘍② 8. まとめ		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	わかりやすい病理学 第7版 岩田隆子 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義(教科書、プリントなど)		
成績評価の方法	試験結果による。		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	疑問点はすぐに質問してください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	臨床心理学 I	担当 教 官 名	古澤文字
対象学生	第1学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	臨床心理学基礎理論 心理アセスメント 心理療法		
授業の概要 及び到達目標	<p>臨床心理学とは、心理療法の基礎理論であり、様々なこころの問題を抱えたひとと向き合い理解するという、対人援助における実践のための学問です。本講義では、理論と実践が不可分な臨床心理学について、下記の内容を理解し説明できるようになることを到達目標とします。</p> <p>①臨床心理学の基礎理論(発達、人格) ②心理アセスメントの方法 ③心理療法の基本的姿勢と実際 ④様々なこころの病いの症状とその解釈</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 臨床の知とは何か 2. こころの発達① 乳児期, 幼児期 3. こころの発達② 児童期, 思春期, 青年期 4. こころの発達③ 成人期, 壮年期, 老年期 5. こころの発達④ 発達障がい/パーソナリティ理論 6. 心理アセスメント① 質問紙法, 作業検査法 7. 心理アセスメント② 知能検査, 発達検査, 神経心理学的検査 8. 心理アセスメント③ 投影法, 描画法 9. 心理療法① こころがまえ 10. 心理療法② 非言語 11. 心理療法③ 精神力動理論, 認知行動理論 12. 心理療法④ 人間性アプローチ, 日本の心理療法 13. こころの病い① 認知症, 統合失調症, 気分障害, 不安症群, 強迫症 14. こころの病い② 心的外傷, 解離症, 摂食障害群, 睡眠-覚醒障害群 15. 試験の解説とまとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	配布資料を使用する。必要に応じて参考文献も紹介する。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	小レポート30%, 期末試験70%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	言語聴覚士の国家資格試験のための学習のために、そして資格取得後の臨床実践現場における臨床心理学的理解のために、少しでも役立てられるよう授業内容を工夫します。オフィスアワーは設けませんので、質問等は授業前後の時間をご利用下さい。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)		専門分野	
授業科目名	嚥下障害概論	担当教官名	上羽 悟		
対象学生	1年生	履修学期	1年生		
必修・選択の別	必修	授業回数	15回		
授業のキーワード	嚥下障害、5期モデル、スクリーニング				
授業の概要 及び到達目標	<p>摂食嚥下障害は、言語聴覚士として関わる事が多い障害になります。1年次前期では、摂食嚥下の解剖・生理・機能を覚え説明できることを目標とし、授業形態としては、座学だけではなく演習を含め実施します。</p> <p>実務者経験： 介護老人保健施設にて9年、回復期リハビリテーション病院にて3年の経験。成人・高齢者に対してのリハビリテーション業務を行っていた。</p>				
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下障害について 2. 摂食嚥下障害に関わる各種器官について① 3. 摂食嚥下障害に関わる各種器官について②、5期モデル・プロセスモデル 4. 「先行期」「準備期①」 5. 「準備期②」 6. 「準備期③」 7. 「口腔期」「咽頭期①」 8. 「咽頭期②」「食道期」 9. 食欲・味覚・嗅覚・咳について 10. 摂食嚥下機能の発達 11. 加齢による変化 12. 食事形態について 13. スクリーニングテスト① 14. スクリーニングテスト② 15. まとめ 				
準備学習	授業前後の予習・復習				
教科書・教材等	「標準言語聴覚障害学 摂食嚥下障害学 第2版」医学書院 藤田郁代				
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン, プロジェクター, 検査機器など)				
成績評価の方法	定期試験100%				
担当教官から 履修に当たっての留意点	摂食嚥下機能に関する「神経」「筋」は難解で、繰り返しの学習暗記が必要です。ここを十分理解することが今後の学習の基礎となるためしっかり復習してください。				

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)			
学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎
授業科目名	リハビリテーション医学	担当教官名	山下 明宏 他
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	リハビリテーション医学、医学的リハビリテーション		
授業の概要 及び到達目標	<p>リハビリテーションの理念と基本原則を理解し、更に医学的リハビリテーションの現状について理解を深めるための知識を習得する。</p> <p>単一疾患や障害のみを対象とするのではなく、重複障害に対するリハビリテーション医学・医療も求められている。今求められているリハビリテーション医学・医療を学び、現場でのリハビリテーションに活用できる知識を習得する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理想的姿勢運動発達の意味するもの1 2. 理想的姿勢運動発達の意味するもの2 3. 地域リハビリテーション論 4. 脳卒中リハビリテーション 5. 高次脳機能障害リハビリテーション 6. 神経筋疾患リハビリテーション 7. リハビリテーション概論1 8. リハビリテーション概論2 9. 言語聴覚障害者へのリハビリテーション1 10. 言語聴覚障害者へのリハビリテーション2 11. リハビリテーション概論3 12. リハビリテーション概論4 13. リスク管理 14. リスク管理 普通救命救急1 15. リスク管理 普通救命救急2 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	現代リハビリテーション医学 改訂第4版 金原出版株式会社		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	複数講師によって構成されています。 復習をしっかりと行ってください。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専 門
授業科目名	構音障害(運動性)	担 当 教 官 名	上羽 悟
対 象 学 生	1年生	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業のキーワード	運動障害性構音障害、定義、発話特徴、評価法		
授業の概要 及び到達目標	<p>運動障害性構音障害の概要を口頭にて伝えられる。 運動障害性構音障害の症状を理解し、タイプ・症状別に分類ができる。 発話に影響を与える、神経・筋系の病態を理解し、その評価法を知る。 演習を通して、評価の一連の流れ・問題点を理解・解釈ができる。</p> <p>実務者経験:介護老人保健施設にて9年、回復期リハビリテーション病院にて3年 成人・高齢者に対してのリハビリテーション業務を行っていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動障害性構音障害とは(定義)、神経系復習 2. 障害構造、運動障害性構音障害のタイプ分類 3. 原因疾患、運動障害性構音障害の発話特徴 4. タイプごとの発話特徴 5. 運動系の基礎理解 6. 評価法の種類 7. 評価法講義(AMSD) 8. 評価法講義(SLTA-ST) 9. 評価法講義(GRBAS、発話特徴抽出検査) 10. 評価法講義・演習(AMSD) 11. 評価法講義・演習(AMSD) 12. 評価法講義・演習(SLTA-ST) 13. 評価法講義・演習(SLTA-ST) 14. 結果のまとめ・問題点抽出 15. 全体まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	ディサースリア臨床標準テキスト〔第2版〕 医歯薬出版 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学〔第3版〕 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン, プロジェクター, 検査機器, DVDなど)		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	前期で学んだ呼吸・発声・発語、神経系の授業資料も復習をしながら受講をして下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	音声学II	担当教官名	高橋絵留美
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	音、音声、IPA		
授業の概要 及び到達目標	<p>[授業の概要] 前半は、音声学の基礎知識の内、特に国家試験問題を解く際に重要となる用語を中心に復習を行います。後半は音声学分野を中心に国家試験問題に取り組み、その解法について学びます。また、音声学Iで学んだIPA (International phonetic alphabet: 国際音声字母)について、カード(IPAカード: 楽しく学ぶ国際音声記号)を用いて、知識の定着を図ります。</p> <p>[到達目標] ①音声学の基礎用語を理解し、その定義や内容について説明できる。 ②音声学の言語聴覚士国家試験問題の概要を理解し、対応できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション/音声学の位置づけ 2. 音声の分類① 3. 音声の分類② 4. 音素/音の結びつき/超分節的要素 5. 日本語の音声① 6. 日本語の音声② 7. IPAカードで国際音声記号を学ぶ 8. 国家試験問題に取り組む ① 9. 国家試験問題に取り組む ② 10. 国家試験問題に取り組む③ 11. 国家試験問題に取り組む④ 12. 国家試験問題に取り組む⑤ 13. 国家試験問題に取り組む⑥ 14. 振り返り 15. まとめ 		
準備学習	授業前後、自身の理解度に応じて、STテキストの該当する箇所、或いは教科書のページを確認すること。		
教科書・教材等	『言語聴覚士テキスト 第3版』 医歯薬出版株式会社 『日本語音声学入門 改訂版』 三省堂 IPAカード: 楽しく学ぶ国際音声記号 (慶應義塾大学言語文化研究所)		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習(パソコン, プロジェクターなど)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	音声学も他の科目と同様、国家試験に向けては暗記事項が多いですが、できるだけ楽しく取り組めるよう、ゲームも交えて知識の定着を図ります。国家試験問題に関しては、解法や問題の傾向などを今のうちから経験できる機会になると考えています。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	言語発達障害治療学	担 当 教 官 名	竹内真理子
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	小児の知能・発達検査、質問紙、直接課題遂行検査、知能・発達指数		
授業の概要 及び到達目標	<p>子どもの心身の発達状況を客観的に評価する方法として、知能検査及び発達検査がある。それらの検査結果から子どもの発達の特徴が理解でき、助言・支援につなげていくことができる。小児用の知能、発達検査には様々な種類が存在し、その検査ごとに結果の表現や評価の仕方が異なる。社会の変遷・ニーズとともに変化してきた各検査の歴史を含め、それぞれの検査の理論的背景を理解し、各検査の実施方法、結果の出し方を習得する。</p> <p>*実務経験:医療機関、相談施設等で30年以上子どもの臨床に携わる。唇顎口蓋裂、発達障害、自閉スペクトラム症等の子どもたちとの臨床及び子どもの養育者、子どもと関わるかたたちとの連携・支援にも携わっている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達検査、知能検査の種類、活用について。質問紙「KIDS」実施。 2. 「KIDS」の結果の出し方。津守・稲毛式発達検査について。 3. 「新版K式発達検査2020」検査項目の説明、実施上の注意。 4. " 検査の実施、方法、結果の出し方。 5. " グループで検査実習。 6. 「田中ビネー視能検査V」 7. " 結果の出し方。 8. WISC-IV 下位検査、結果の出し方。 9. KABC-II 下位検査。 10. KABC-II 結果の出し方。 11. PVT-R、国リハ式<S-S法> 12. 国リハ式<S-S法> 結果の出し方。 13. DN-CAS認知評価システム。 14. 検査結果報告書の書き方。新版K式発達検査結果の出し方を復習。 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	レジュメを参照。各検査マニュアル及び検査記録用紙。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	知能検査は100年以上の歴史があり、その時代状況の要請の中で、形を変えながら現在に至っています。その視点も大事に各検査を理解していくと、今の子どもたちの問題、必要な支援が見えてきます。それらを臨床に有効に役立てていくことができます。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎科目
授業科目名	臨床歯科・口腔外科	担当教官名	杉山 文枝
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	口腔、歯		
授業の概要 及び到達目標	<p>・歯と口腔の発生や機能を学ぶ。 ・歯や口腔などの疾患により口腔の機能障害をもった患者の社会復帰への援助を行うことを目標とする。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔について 2. 歯の種類、数について 3. 歯と顔面の発生について 4. 歯の萌出時期について 5. 歯数の異常 6. 唇裂・口蓋裂について 7. 唇顎口蓋裂の治療時期について 8. 軟組織の病変 9. 軟組織の病変 10. 加齢による口腔変化 11. 顎関節症 12. 顎関節症 13. 総復習 14. まとめ 15. 解説 		
準備学習			
教科書・教材等	教科書(臨床歯科医学・口腔外科学 言語聴覚学講座 医歯薬出版株式会社)、プリント、板書など		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, など)		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から 履修に当たっての留意点	教科書は難しいので授業に積極的に参加してください。 わからないときには、すぐに質問してください。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	失語症学Ⅱ	担当教官名	木村
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必須	授業回数	23回
授業のキーワード	失語症 評価 検査 言語病理学的診断		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要:失語症学Ⅰで学んだ失語症の定義、症状や症候群の理解を踏まえ、評価・診断を正確にすることが出来るよう、実際の検査も演習形式にて行いつつ説明する。</p> <p>実務者経験:一般病院で28年間、急性期から生活期にわたって失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害に対するリハビリテーションに携わった。</p> <p>到達目標:①失語症状を評価し、言語病理学的診断が出来るようになる。 ②評価・診断のために必要な検査を行うことができるようになる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 評価・診断の流れ 情報収集 2. インテーク面接 スクリーニング検査 3. SLTA① 4. SLTA② 5. SLTA③ 6. SLTA④ 7. SLTA⑤ 8. WAB失語症検査① 9. WAB失語症検査② 10. 言語症状のまとめ① 11. 言語症状のまとめ② 12. 小テスト 掘り下げ検査 13. 認知神経心理学の情報処理モデル 14. 理解面の評価①(TLPA・SALA・語音弁別検査・STA・トークンテスト・SLTA-ST他) 15. 理解面の評価② 16. 理解面のまとめ 17. 表出面の評価①(TLPA・SALA・STA・SLTA-ST他) 18. 表出面の評価② 19. 小テスト 表出面のまとめ 20. 重度失語症検査・CADL 21. 認知面の評価 22. 評価サマリーの作成 23. 全体まとめ 		
準備学習	授業前後の予習・復習 検査用具を用いての練習		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 藤田郁代シリーズ監修 医学書院 標準失語症検査マニュアル改訂第2版 日本高次脳機能障害学会編 新興医学出版社		
授業の形式 教育機器の活用	パソコン, プロジェクター, 検査機器など		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	失語症学Ⅰで学んだ知識をもとに、評価・診断を行っていきます。最終的に総合的失語症検査が実施できその結果をもとに評価できるよう、授業時間以外の時間も使って内容の確認が必要です。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	聴覚心理学	担当教官名	古田功士
対象学生	第1学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必須	授業回数	15コマ
授業のキーワード	サウンドスペクトログラム、音声知覚、聴覚 ラウドネス 聴覚フィルター Phon Sone Mel		
授業の概要 及び到達目標	<p>母音や子音として知覚される音声は、どのような音響特性を持って知覚されているかを理解し、サウンドスペクトログラムから読み取ることができる。音声学などのほかの音声言語関連の科目の知識も含めて、実際の音声について分析を行い、レポートにまとめることができる。聴覚心理について、聴覚の基本的な解剖生理の上に、本講義では前述の音声知覚も含め、音を大きさや高さとして認識する心理機構を学ぶ。</p> <p>【実務経験】言語聴覚士として病院にて成人(高齢者含む)の言語障害や発声発語障害のリハビリテーションに15年以上従事。また養成校における音声言語関係の講師としても10年以上の経験を持つ。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声の音響特性と知覚(母音):復習 2. 音声の音響特性と知覚(閉鎖音) 3. 音声の音響特性と知覚(摩擦音、鼻音) 4. 音声の音響特性と知覚(総括) 5. 音声の音響分析(実習) 6. 音声の音響分析(実習) 7. 聴覚の基本的な構造生理について 8. 閾値、最小可聴値について 9. 大きさ、ラウドネスについて 10. 高さ、音色について 11. 弁別閾値、極短波などについて 12. マスキング、臨界帯域幅について 13. 両耳の聞こえ、環境と聴覚について 14. 高齢者の聴覚について 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	言語聴覚士テキスト第3版の当該のページ。(参考書籍として音声学、音響学で使用した教材も持ち込み可。)		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	科目修了試験70%、音声の音響分析レポート30%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	レポート課題は講義内でグループワークにて作成していきます。欠席されないようご注意ください。音響分析をしていただきますので、PC(Windows限定)をお持ちいただける方はお持ちください(1~6予定)		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	聴力検査	担 当 教 官 名	佐藤愛子
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	聴力検査・聴覚障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>言語聴覚士にとって必要な聴力検査について、目的、方法、手順を学ぶ。 純音聴力検査、語音聴力検査、乳幼児聴力検査、自記オージオメトリ、インピーダンスオージオメトリについては方法、手順を習熟できることを目指す。検者に必要とされる心構え、被検者への配慮を自ら考え実践できるように、実技の練習時間を多く設け、臨床現場でのSTとしての基礎を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各検査の目的、意義、適応を理解する ●方法、手順については特に実技を行うことで理解する ●検査結果を読み取ることができるようになり、聴覚障害者に対するSTとしての必要な支援を考えることができる ●純音聴力検査のマスクングについてはマスクング量の計算からプラトー法まで理解できるように取り組む ●検査する側、検査される側の両方を経験することで、検査を実施する上での検査者としての心構えを学ぶ 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1: 聴力検査を学ぶ上で必要となる基礎、純音聴力検査の目的・方法 2: 純音聴力検査の手順・オージオメーター 3: 陰影聴取・純音聴力検査実施におけるマスクングについて 4: 純音聴力検査(実技) 5: 気道、骨導検査時のマスクング・プラトー法について 6: 純音聴力検査(実技) 7: 純音聴力検査のマスクング・語音聴力検査 8: 語音聴力検査(実技) 9: 乳幼児聴力検査 10: 語音聴力検査・乳幼児聴力検査(実技) 11: 自分の声の大きさを知る(演習) 12: 特殊検査について 13: 他覚的聴力検査について① 14: 他覚的聴力検査について② 15: 試験 16: まとめ 		
準備学習	復習プリントを適宜配布します。復習をしっかりと行ってください。		
教科書・教材等	南山堂 日本聴覚医学会編『聴力検査の実際』		
授業の形式 教育機器の活用	講義(教室にて: パソコン、プロジェクター) 実技(聴力検査室、言語訓練室: 聴力検査機器)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>聴力検査の目的、検査結果から難聴の程度やタイプを読み取る力をつけ、難聴患者様への必要な支援がどういったものなのかということまずはご自身でしっかりと考え、理解していただきたいです。 マスクングについては、計算から正確な検査ができていくことを確かめられるように、練習問題を繰り返し行っていきます。実技については「習うより慣れる」精神で積極的に自分からどんどん検査機器に触れてください。検査は最初が肝心です。不明な点があれば、自分たちで解決しようとせず、講師に確認してください。</p>		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)			
学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎
授業科目名	言語学Ⅱ	担当教官名	正田久美
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	言語学Ⅱに引き続き、言語学概要を学ぶ。今期は、文法、語の意味、発話行為や機能、社会における言語について学ぶ。日本語が持つ特徴やメカニズムについても理解を深める。言語聴覚士の仕事に必須である「言葉」に敏感になることを目標とする。臨床現場に役立ち、応用できる言語学の知識を身につけ、言葉に対する感覚を鋭敏にする。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第14講 統語論1 統語構造 2. 第15講 統語論2 句構造文法と変形文法 3. 第16講 統語論3 生成文法 4. 第17講 統語論4 統語事象 5. 第18講 意味論1 意味の意味 6. 第18講 意味論2 語の意味 7. 第20講 意味論3 比喩と連語 8. 第21講 意味論4 文の意味 9. 第22講 語用論1 発話の意味 10. 第23講 語用論2 場面と言語現象 11. 第24講 言語と社会 言語変種 12. 第25講 言語の変化 13. 第26講 世界の中の言語 14. 復習 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	言語学入門 - これから始める人のための入門書 佐久間淳一、町田健 他 著		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験 70点 小テスト30点 (試験範囲は伝えますが、試験や問題形式に関する質問は一切受け付けません。)		
担当教官から 履修に当たっての留意点			

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	言語発達障害Ⅰ(精神発達遅滞)	担 当 教 官 名	木村秀生
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	<p>「精神発達遅滞」は知的発達の障害である。知的機能や適応機能に基づいて判断されるが、その原因疾患は様々であり、その正しい診断が重要である。その診断に基づき、早期に治療・療育・教育を行う必要がある。</p> <p>支援を必要としている対象者が子どもの場合、その子の発達全般の客観的評価を行い、現状の能力を知る必要がある。その結果を親や幼稚園や学校の先生など子どもたちに関わる方たちと共有することも重要になる。</p> <p>この授業では、以上の様なセラピーを実施するために必要な視点とアプローチ方法について理解する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達の諸相① 2. 発達の諸相② 3. 非言語的コミュニケーション 4. 事例検討① 5. 事例検討② 6. 事例検討③(幼児 評価・支援) 7. 事例検討④(学童 知的能力 評価・支援) 8. 事例検討⑤(ダウン症) 9. 事例検討⑥ 10. 事例検討⑦(知的障害) 11. 事例検討⑧(支援) 12. 事例検討⑨(支援) 13. 事例検討⑩(支援・療育) 14. 事例検討⑪(支援・療育) 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第3版、配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	後期定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	質問は随時受け付けます。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	言語発達障害Ⅱ(脳性麻痺)	担 当 教 官 名	木村秀生
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード			
授業の概要 及び到達目標	脳性麻痺に伴う様々な障害を理解し評価訓練方法を習得する。 特に見た目の「重度」にSTがとられず、児が潜在させているコミュニケーション能力・知的能力を「客観的」に評価するための視点とアプローチ方法を理解する。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳性麻痺概論(臨床像) 2. 脳性麻痺概論(定義) 3. 脳性麻痺の定義を中心とした国試問題演習 4. 国試問題の続きと定形運動発達 について 5. PVL/重症児臨床像とCom支援・国試問題 6. 肢体不自由児へのコミュニケーション支援 7. 肢体不自由児へのコミュニケーション支援続き 8. AACについて 9. シンボルコミュニケーション 10. AAC国試問題・コミュニケーションロボット 11. インリアルについて 12. インリアルについて 13. 国家試験問題 14. ポジショニング・ハンドリング 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	授業資料のみ		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	後期定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	復習を行って下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	構音障害(機能性含む)	担 当 教 官 名	藤原百合
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	発話のメカニズム、発話の発達、機能性構音障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>正常な発話のメカニズムや発達を理解し、構音障害を来す原因や関連要因について学ぶ。主に発達途上に起こる機能性構音障害について、鑑別診断、評価方法、指導方法について学ぶ。また、実際の音声サンプルを用いて、評価・指導プログラムの立案の演習を行う。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常な発話のメカニズムを踏まえ、構音障害の概要について理解する。 ・機能性構音障害に対する評価・指導を模擬的に実施できる。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な発話のメカニズム 2. 話ことばの発達 3. 構音障害の原因、関連要因 4. 構音障害の評価 5. 特異な構音操作による誤り 6. 構音検査法 7. 構音評価演習 8. 構音指導法 9. 構音指導演習 10. 機器を用いた構音指導 11. ケーススタディ(1) 12. ケーススタディ(2) 13. グループ演習 14. グループ演習 15. 全体のまとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第3版		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験 90% 演習 10%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	自ら考える態度を養ってください。質問を歓迎します。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎
授業科目名	耳鼻咽喉科学	担当教官名	小島憲 先生
対象学生	1年生	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	耳鼻咽喉科学		
授業の概要 及び到達目標	耳鼻咽喉科領域を耳／鼻／咽頭／喉頭／気管食道／音声言語の領域に分割し、それぞれ解剖／生理／検査／疾患について講義を行う。言語聴覚士に必要とされる、国家試験レベルの耳鼻咽喉科領域の知識習得を目的とする		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 耳科学領域の解剖と生理について 2. 耳科学領域の検査について 3. 耳科疾患の病態／検査／治療について 4. 耳科疾患の病態／検査／治療について 5. 耳科疾患の病態／検査／治療について 6. 鼻科学領域の解剖／生理／検査について 7. 鼻科疾患の病態／検査／治療について 8. 鼻科疾患の病態／検査／治療について 9. 鼻科疾患の病態／検査／治療について 10. 口腔咽頭科学領域について 11. 喉頭科学領域について 12. 気管食道科学領域について 13. 音声言語科学領域について 14. 音声言語科学領域について 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	教科書: イラスト耳鼻咽喉科(文光堂)、教材: プリント、スライド等		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	出席および授業態度、テストにて評価		
担当教官から 履修に当たっての留意点	国家試験合格を目的とした講義を行います		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	小児聴覚障害 I	担当教官名	高井小織
対象学生	第1学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	聴覚障害 乳幼児聴覚検査 言語の発達 言語の習得と運用 保護者支援		
授業の概要 及び到達目標	<p>【授業の概要】・聴覚障害が言語および社会性の発達にどのような影響を与えるかを具体的なシミュレーションや、動画・ゲストスピーカーなどを通して理解を促す。 ・また難聴発見から介入に必要な保護者のカウンセリング、幼児聴覚検査、補聴器及び人工内耳等の適応とそれらを活用するための様々な療育・教育における視点を解説する。</p> <p>【到達目標】 ・聴覚障害のある小児への基本的な検査法を理解し、結果を評価するとともに、言語を中心にした幅の広い発達に対して支援・指導を提案することができるようにする。 ・小児聴覚障害を正しく理解する。 ・聴覚と言語の発達について、その課題や阻害要因を理解し、検査法・支援・指導の方法論について理解する。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 小児聴覚障害の理解に必要な基礎的知識 I (音響心理学から) 第2回 小児聴覚障害の理解に必要な基礎的知識 II (音声日本語の特徴から) 第3回 小児の聴覚障害の発見と鑑別 I 第4回 小児の聴覚障害の発見と鑑別 II 第5回 小児の言語・聴覚ハビリテーション I 第6回 小児の言語・聴覚ハビリテーション II 第7回 小児の聴覚活用への支援 I 第8回 小児の聴覚活用への支援 II 第9回 小児の言語習得への支援 I 第10回 小児の言語習得への支援 II (保護者 ゲスト) 第11回 聴覚障害のある小児の社会自立までの見通しをもった支援・援助 I 第12回 聴覚障害のある小児の社会自立までの見通しをもった支援・援助 II (聴覚障害のある若者 ゲスト) 第13回 聴覚障害のある小児の保護者支援と療育・教育機関との連携 I 第14回 聴覚障害のある小児の保護者支援と療育・教育機関との連携 II 第15回 まとめと今日的課題</p>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	<p>教科書: 医学書院『聴覚障害学第3版』 参考書 「聴覚障害教育これまでとこれから」脇中起余子著 北大路書房 「教育オーディオロジーハンドブック」大沼直紀著・編 ジアース出版社</p>		
授業の形式 教育機器の活用	講義 PCとPP 資料などを活用 (基本的には講義ですが、グループ討議や双方向の活動を含みます)		
成績評価の方法	定期試験80% 授業内課題20%(授業内活動・レポート・各回のふりかえり)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>* 復習・予習・質問等 復習・予習、また授業後の小レポートなどを具体的に課すので、丁寧に学習してください。また、積極的な質問を期待します。(基本的に、休み時間・授業後に受け付けます) 幅広い視点、社会自立までの長い見通しをもち、聴覚障害のある子どもの発達を理解し、支援していきたいと思っています。正しい知識理解と今日の様々な角度からの課題をとらえ判断する力、暖かく継続的なまなざし等がこの科目の基礎に必要であると思います。真摯な学習を期待いたします。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	成人聴覚障害(視覚聴覚二重障害含む)	担 当 教 官 名	岸田隆之
対象学生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	成人聴覚障害の評価 聴覚リハビリテーション 制度 盲ろう		
授業の概要 及び到達目標	<p>成人聴覚障害の実態やライフステージによる違い、コミュニケーション手段を知ること で成人聴覚障害の全体像が説明できる。 成人聴覚障害の聴覚・コミュニケーション・心理社会的側面の評価ができる。 成人聴覚障害に対するリハビリテーション内容計画することができる。 成人聴覚障害者への対応ができる。 視覚聴覚二重障害についての実態とコミュニケーション手段を知ること、視覚聴 覚二重障害の全体像を説明できる。</p> <p>実務者経験：1985年～2000年大阪府立身体障害者福祉センター附属病院耳鼻 咽喉科にて臨床検査、補聴器適合等 2017年～ 神戸市障害者更生相談所補装具適合判定</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 成人聴覚障害のリハビリテーション概要 第2回 成人聴覚障害のリハビリテーション概要 第3回 成人聴覚障害の評価 第4回 成人聴覚障害の評価、成人聴覚障害者のコミュニケーション手段 第5回 成人聴覚障害の指導・支援 第6回 成人聴覚障害の指導・支援 第7回 難聴発症時期別の対応 第8回 加齢性難聴と認知機能 第9回 聴覚保障機器(補聴器、人工内耳、補聴援助システム) 第10回 聴覚保障機器(補聴器、人工内耳、補聴援助システム) 第11回 視覚聴覚二重障害者の実態、原因 第12回 視覚聴覚二重障害者のコミュニケーション手段、対応 第13回 一側性難聴、中枢性難聴、AN、APD、機能性難聴、重複障害 第14回 情報保障、社会福祉制度(障害者総合支援法、補装具) 第15回 まとめ</p>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学(第2版) 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義 プロジェクター(パソコンは持参)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	講義を通して学んだ成人聴覚障害への対応を臨床に結び付けて欲しい。質問は随 時受け付けます。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	生涯発達心理学 I	担 当 教 官 名	山村裕大
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	乳幼児期、児童期、発達課題、発達段階		
授業の概要 及び到達目標	生涯発達心理学における、乳児期～児童期の身体、心の発達を概観していきます。発達心理学における重要なトピックが多い領域であり、2年生の前期から始まる青年期に繋がる土台の時期でもあります。国試に出題される大部分を占める範囲でもあるので重点的に学ぶ必要があります。この授業では、乳児期から児童期までの発達に関する基本的な理論や知識を体系的に習得することを目指します。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達心理学とは 2. 発達のプロセスとメカニズム 3. 知能の発達 4. 胎児、新生児の発達 5. 感覚・運動の発達 6. 自己と感情の発達 7. 愛着と親子関係の発達 8. 知覚・認知の発達 9. 言語の発達 10. 社会性・道徳性の発達 11. 遊び・仲間関係の発達 12. 学習理論と動機づけ 13. 発達障害と非定型発達 14. 子どもの心と行動の問題 15. 講義のまとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	配布資料(参考文献などは授業内で適宜紹介します)		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	生涯発達心理学という分野の中でも乳児～児童期は、身体や精神の発達において土台となる最重要な発達が促される時期です。専門科目ではないと思いますが、知識だけの学びではなく、自分の体験として幅を広げていく学びに繋がればと思います。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	臨床心理学Ⅱ	担 当 教 官 名	上松幸一
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	臨床心理学的支援、アセスメント		
授業の概要 及び到達目標	<p>臨床心理学の応用編として、福祉臨床の現場を中心に、さまざまな機関とのコラボレーションから理解する心理臨床の現状について講義を行う。</p> <p>また、言語聴覚士としても必須である、対象者の心理的サポートの方法について学習し、様々な問題に柔軟に対応できるようになることを目指す。</p> <p>なお、この講義は、長年児童福祉臨床で勤務し、さまざまな関係機関と連携を行ってきた臨床心理士の実務経験に基づいたものである。</p>		
講義計画・内容	<p>1・オリエンテーション 心理臨床の現場 見立てや診断について</p> <p>2・福祉機関における心理臨床の現場 ①発達障害・知的障害</p> <p>3・福祉機関における心理臨床の現場 ②児童虐待によるトラウマ・PTSD①</p> <p>4・福祉機関における心理臨床の現場 ③児童虐待によるトラウマ・PTSD②</p> <p>5・福祉機関における心理臨床の現場 ④DV・性的被害</p> <p>6・医療機関と福祉機関のコラボ ①統合失調症・気分障害</p> <p>7・医療機関と福祉機関のコラボ ②パーソナリティ障害・強迫性障害</p> <p>8・医療機関と福祉機関のコラボ ③自殺対策・摂食障害</p> <p>9・保健機関と福祉機関のコラボ 子育て不安など</p> <p>10・教育機関と福祉機関のコラボ 不登校・引きこもり、学級崩壊</p> <p>11・実際の心理アセスメントについて 心理検査を中心に</p> <p>12・家族に視点を当てた対応 家族療法と家族面接・観察</p> <p>13・ソーシャルスキルトレーニングについて 認知・行動療法と集団療法</p> <p>14・支援者支援について</p> <p>15・まとめについて</p>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	教科書は特に使用しない。適宜、資料を配布する。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)、および演習(ディスカッション)		
成績評価の方法	試験成績(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>①20分未満の遅れの場合は遅刻扱いとなること。</p> <p>②20分以上の遅れの場合は欠席扱いとなること。</p> <p>③20分以上遅刻をし、欠席扱いとなっても、しっかりと残りの講義を聴講すること。</p> <p>④出欠席は必ず総授業時間数の3分の2以上すること、出席回数が3分の2に達しない者は本試験の受験資格を失う</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎
授業科目名	臨床神経学	担当教官名	木下彩栄 他
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	神経系、神経・筋疾患		
授業の概要 及び到達目標	言語聴覚士として必要な神経系の構造・機能・病態についての知識をもとに、幅広い神経疾患における症状、診断、治療、機能予後についての知識を修得する。		
講義計画・内容	第1～3回 高次脳機能とその障害 (解剖の復習、血管支配と症状、失語など国家試験に出る部分を中心に) 第4回 脳血管障害 第5回 認知症関連疾患 (AD, VaD, DLB, FTL, tauopathy, iNPH) 第6回 アルツハイマー病(ビデオ学習) 第7回 パーキンソン病関連疾患(PD, DLB, 薬剤性、血管性) 第8回 脊髄小脳変性症、運動ニューロン病(ALS, SMA) 第9回 頭痛 めまい 一般内科疾患に伴う神経症状 第10回 脱髄性疾患(MS, ADEM, NMO)、神経感染症(脳炎、脊髄炎、prion病) 第11回 てんかん(松橋先生) 第12回 神経筋疾患(松橋先生) 第13回 頭部外傷 (峰晴先生) 第14回 脳腫瘍 (峰晴先生) 第15回 まとめ・テスト解説		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	参考書:病気がみえる vol 7 脳・神経 第2版 2017年 メディックメディア 各回の授業において資料を配布する		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	期末試験にて評価する。60点以上を合格とする。		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	前期の神経解剖の復習をすること。授業においてしっかりと理解、記憶に努めること。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎
授業科目名	臨床神経学	担当教官名	木下彩栄 他
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	神経系、神経・筋疾患		
授業の概要 及び到達目標	言語聴覚士として必要な神経系の構造・機能・病態についての知識をもとに、幅広い神経疾患における症状、診断、治療、機能予後についての知識を修得する。		
講義計画・内容	第1～3回 高次脳機能とその障害 (解剖の復習、血管支配と症状、失語など国家試験に出る部分を中心に) 第4回 脳血管障害 第5回 認知症関連疾患 (AD, VaD, DLB, FTLD, tauopathy, iNPH) 第6回 アルツハイマー病(ビデオ学習) 第7回 パーキンソン病関連疾患(PD, DLB, 薬剤性、血管性) 第8回 脊髄小脳変性症、運動ニューロン病(ALS, SMA) 第9回 頭痛 めまい 一般内科疾患に伴う神経症状 第10回 脱髄性疾患(MS, ADEM, NMO)、神経感染症(脳炎、脊髄炎、prion病) 第11回 てんかん(松橋先生) 第12回 神経筋疾患(松橋先生) 第13回 頭部外傷(峰晴先生) 第14回 脳腫瘍(峰晴先生) 第15回 まとめ・テスト解説		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	参考書:病気がみえる vol 7 脳・神経 第2版 2017年 メディックメディア 各回の授業において資料を配布する		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	期末試験にて評価する。60点以上を合格とする。		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	前期の神経解剖の復習をすること。授業においてしっかりと理解、記憶に努めること。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専 門
授業科目名	嚥下障害 I (治療学)	担当教官名	深見 真由
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	23回
授業のキーワード	嚥下評価 検査 治療 各疾患における病態		
授業の概要 及び到達目標	<p>【概要】 各疾患における嚥下障害の病態を知り、それぞれに応じた評価法・治療法について実技を取り入れながら実施する。</p> <p>【到達目標】 評価を正しく実施でき、結果から問題点が導き出せる。 評価、訓練の手順を理解する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期復習 2. 脳血管障害の摂食嚥下障害 3. 神経筋疾患の摂食嚥下障害 4. その他の問題に伴う摂食嚥下障害 5. 評価法① 6. 評価法② 7. 評価法③ 8. 嚥下内視鏡検査 9. 嚥下造影検査 10. その他の検査 11. 訓練法① 12. 訓練法② 13. 訓練法③ 14. 訓練法④ 15. 嚥下調整食・とろみ 16. 症例検討① 17. 姿勢調整と代償法 18. 手術・気管切開・吸引 19. 代替栄養、口腔ケア 20. 情報収集 21. 症例検討② 22. 症例検討③ 23. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	摂食嚥下障害学第2版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	後期は座学+演習の授業となります。評価法や訓練法について正しい手順を身につけましょう。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎
授業科目名	リハビリテーション概論	担当教官名	山下明宏 他
対象学生	2年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	多職種連携、理学療法、作業療法		
授業の概要 及び到達目標	<p>高齢者・障害者の医療と保健・福祉に関わっていく上で、多職種の理念・リハビリテーションの考え方を共有する事は、言語聴覚療法を実施する上でも重要となる。 チームで社会復帰を目指す上でも、多職種を理解し連携していく事が重要である。 多職種のリハビリテーションの概略とその考え方を知る。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視能訓練について 2. 視野検査演習 3. 作業療法について 4. 作業療法演習 5. リスク管理について 6. リハビリテーション栄養管理 7. 理学療法について 8. 理学療法演習 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点			

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専 門
授業科目名	言語聴覚診断学Ⅰ(小児・成人)	担当教官名	山下明宏 他
対象学生	2年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	23回
授業のキーワード	言語聴覚療法、評価、診断		
授業の概要 及び到達目標	<p>言語聴覚療法を実施するにあたり、まず始めに行うのは評価・診断である。言語聴覚療法の診断・評価に必要な、知識・技術を身につける。評価の手順、必要な検査方の種類・概要を学び、臨床場面にて適切な面接法・検査法を選択し、実施できることを目指す。他の科目で学んだ知識・技術を統合し考え計画・実施が行える。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価・診断の流れ(上羽) 2. 評価・診断に用いる検査法の種類(上羽) 3. 言語聴覚療法の評価・診断①(深見) 4. 言語聴覚療法の評価・診断②(深見) 5. 言語聴覚療法の評価・診断③(山下) 6. 言語聴覚療法の評価・診断④(山下) 7. 評価とは(向田) 8. 初回評価の実際(模擬症例)(向田) 9. 言語聴覚療法の評価・診断⑤(深見) 10. 言語聴覚療法の評価・診断⑥(深見) 11. <S-S法>言語発達遅滞検査(講義)(向田) 12. <S-S法>言語発達遅滞検査(実技)(向田) 13. LCスケール(講義・実技)(向田) 14. 評価①(向田) 15. 評価②(向田) 16. 評価③(向田) 17. 言語聴覚療法の評価・診断⑦(山下) 18. 言語聴覚療法の評価・診断⑧(山下) 19. 小児の嚥下障害①(坂本) 20. 小児の嚥下障害②(坂本) 21. 小児の嚥下障害③(坂本) 22. 小児の嚥下障害④(坂本) 23. 試験 24. まとめ(上羽) 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	配布資料、検査マニュアル、検査道具		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点			

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	高次脳機能障害Ⅱ	担当教官名	上羽 悟
対象学生	2年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	23回
授業のキーワード	高次脳機能障害, 失行, 失認, 前頭葉機能, 記憶, 注意		
授業の概要 及び到達目標	<p>高次脳機能障害の多様な障害について、演習を交えながら評価や訓練法についての知識・技術を身に付ける。 個々の症状に合わせた検査法の選択、個々の状態・状況に応じた訓練プログラムの立案が行えることを目標とする。</p> <p>実務者経験： 介護老人保健施設にて9年、回復期リハビリテーション病院にて3年の経験。 成人・高齢者に対してのリハビリテーション業務を行っていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 背景症状について 2. 認知機能検査(HDS-R, MMSE-J, MOCA-J) 3. 知能検査(コース立方体検査、レーヴン色彩マトリクス検査) 4. 知能検査(WAIS-IV) 5. WAIS-IV 演習 6. WAIS-IV 演習 7. 視覚認知機能について 8. 視覚認知機能の評価 演習(BIT) 9. 視覚認知機能の評価 演習(VPTA) 10. 行為について 11. 行為の評価 演習(SPTA) 12. 遂行機能について 13. 遂行機能の評価(ストループテスト、TMT、FAB) 14. 遂行機能の評価(BADS) 15. 注意機能について 16. 注意機能の評価 演習(仮名拾い検査、CAT) 17. 注意機能の評価 演習(CAT) 18. 記憶について 19. 記憶の検査 演習(記銘力検査、S-PA) 20. 記憶の検査 演習(RBMT) 21. 高次脳機能障害の訓練① 22. 高次脳機能障害の訓練② 23. 講義まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	『高次脳機能障害学 第3版 医学書院』 『言語聴覚士テキスト 第3版 医歯薬出版』		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	1年次で学んだ基礎知識を臨床場面につなげるため、予習・復習を行ってください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	カウンセリング法	担 当 教 官 名	橋本由布子
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	カウンセリング法・カウンセリング		
授業の概要 及び到達目標	<p>カウンセリングの技法や歴史について学び、ロールプレイを通して体験を深める。さらには事例検討を行い、実際のカウンセリングがどのようなものかを理解する。最終的には、その技法や心構えを各々の専門領域で活かせるようになることを目標とする。</p> <p>*実務経験: 小学校・高校でのスクールカウンセリング、大学の学生相談室で、小学生から大学生、その保護者を対象にカウンセリングを行なっている。また、大学内の外部向け相談室では、幼児から老年期までを対象にカウンセリングを行なっている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. カウンセリングの諸技法と歴史① 3. カウンセリングの諸技法と歴史② 4. ロールプレイとディスカッション① 5. ロールプレイとディスカッション② 6. 実際の事例からの検討① 7. 実際の事例からの検討② 8. 言語と臨床について 		
準備学習	特別な予習は必要ないが、授業後には各自復習を行うこと		
教科書・教材等	特定の教材は用いない。資料等は授業内で配布を使用し、参考文献等は授業内に紹介したものを各自参照すること。		
授業の形式 教育機器の活用	講義(参考資料, パソコン, プロジェクター使用)		
成績評価の方法	定期試験60%+毎授業後の小レポート40%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	ロールプレイや事例検討など、皆さんの積極的な参加が必要な授業です。全8回と短いですが、実務に役立つカウンセリングの世界を一緒に体験していきましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎
授業科目名	医療・福祉・教育関係法規	担当教官名	正木明子
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	医療、福祉、法律		
授業の概要 及び到達目標	医療に関する法制度及び医療政策について、医療現場の視点から考察する。言語聴覚士に関する法規の成立・趣旨・目的を知り、言語聴覚士の仕事の本質について学び、自ら考えることにより習得する。同時に国家試験合格レベルの知識を習得する。		
講義計画・内容	1.ガイダンス 授業目的の説明、なぜ医療関係法規を学ぶのか 2.現代社会の変化と医療制度 3.日本の医療制度の現状と未来 4.公衆衛生法、医療法 5.医療従事者に関する法律 6.言語聴覚士に関わる倫理と法律 7.インフォームド・コンセント 8.終末期医療と自己決定権		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	系統間語学講座 看護関係法令 健康支援と社会保障制度4 森山幹夫		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験80%・レポート20%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	レポート提出が求められる。テーマについて、自分なりの視点から考える姿勢を持って欲しい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎
授業科目名	医療・福祉・教育関係法規	担当教官名	正木明子
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	医療、福祉、法律		
授業の概要 及び到達目標	医療に関する法制度及び医療政策について、医療現場の視点から考察する。言語聴覚士に関する法規の成立・趣旨・目的を知り、言語聴覚士の仕事の本質について学び、自ら考えることにより習得する。同時に国家試験合格レベルの知識を習得する。		
講義計画・内容	1.ガイダンス 授業目的の説明、なぜ医療関係法規を学ぶのか 2.現代社会の変化と医療制度 3.日本の医療制度の現状と未来 4.公衆衛生法、医療法 5.医療従事者に関する法律 6.言語聴覚士に関わる倫理と法律 7.インフォームド・コンセント 8.終末期医療と自己決定権		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	系統間語学講座 看護関係法令 健康支援と社会保障制度4 森山幹夫		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験80%・レポート20%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	レポート提出が求められる。テーマについて、自分なりの視点から考える姿勢を持って欲しい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	音声障害	担当教官名	岸本 曜、金子真美
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	音声障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>音声はヒトにとって最も重要なコミュニケーションツールの一つであり、その障害は患者にとって社会的にも精神的にも大きな負担となります。</p> <p>本講義を通して音声障害診療の理解を深めるため、下記に示す内容を到達目標とします。</p> <p>①音声に関与する解剖学的構造とその機能を理解し、説明できる。 ②音声障害をきたす代表的な疾患に関して説明できる。 ③音声障害の検査法について説明できる。 ④音声障害の治療法について説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声障害概論 2. 解剖・生理 3. 解剖・生理 4. 解剖・生理 5. 検査 6. 検査 7. 良性隆起性病変 8. 悪性病変・瘢痕病変 9. 神経原性病変 10. 機能的性病変 11. 音声外科 12. 無喉頭、代用音声、気管切開管理 13. 音声治療(金子) 14. 音声治療(金子) 15. 音声治療(金子) 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。7以降では2-6の内容の理解が必須となります。		
教科書・教材等	言語聴覚士のための音声障害学 医歯薬出版		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)			

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	画像診断学	担当教官名	水田正芳
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	放射線診断に用いる検査画像 正常画像・典型的な疾患画像		
授業の概要 及び到達目標	<p>画像診断は、近年の技術進歩によって医療現場において不可欠なものとなっている。言語聴覚士にとって医用画像である放射線画像・MR(核磁気共鳴)画像等の知識を学ぶことは大切である。医用画像の成り立ちおよび医用画像の見方について講義する。</p> <p>(到達目標) 各画像診断機器の基本原理・特性を理解する。 代表的な疾患についての典型的な臨床画像を理解する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線と被ばく 2. 単純X線撮影 原理と正常画像解剖 3. 透視撮影 原理と正常画像解剖 4. CT(Computed Tomography)原理と正常画像解剖 5. MRI(Magnetic Resonance Imaging)原理と正常画像解剖 6. 頭頸部の代表的な疾患画像 7. 四肢の代表的な疾患画像 8. 胸部・腹部の代表的な疾患画像 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	画像を提示しますのでプロジェクターを使用します。眼鏡などが必要な人は持ってくるようにしてください。また授業中のスクリーンの撮影は厳禁です。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	吃音	担当教官名	早瀬 準
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	吃音 クラタリング 流暢性障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要: 本講義では、吃音を中心とした流暢性障害の定義や症状、評価について理解すると共に、心理状態や環境への働きかけも含めた指導や訓練、援助の内容についての知識を身につけることを目標とする。</p> <p>到達目標: ①吃音・流暢性障害の定義や吃音症状について説明できる。 ②吃音の評価及び指導・訓練についての知識を身につける。 ③吃音・流暢性障害者の心理状態や周辺環境について理解する。 ④流暢性障害の国試レベルの知識を身につける。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 流暢性障害の基本概念 2. 吃音の発症と進展メカニズム 3. 流暢性障害の評価診断 4. 吃音評価の実際 5. 流暢性障害の治療 6. セルフヘルプグループ・クラタリングについて 7. 吃音検査法 8. 国試対策・まとめ 		
準備学習	授業後には復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学(第3版) 監修 藤田郁代 医学書院 言語聴覚士テキスト(第3版) 医歯薬出版株式会社		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	吃音・流暢性障害に関する専門科目はこの科目のみとなります。 流暢性障害の基礎的知識だけでなく、心理学に通じる幅広い知識が求められます。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	言語聴覚障害診断学Ⅱ(聴覚)	担 当 教 官 名	森 尚 彫
対象学生	第2学年	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	聴覚障害 補聴器 人工内耳 評価 訓練立案		
授業の概要 及び到達目標	<p>聴覚は言語発達に関わっており、聴覚が障害されることで、言語理解や表出への様々な影響が出てくるため、聴覚障害学の習得は言語聴覚士にとって必須である。本講義では、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①聴覚障害者・児に対する聴こえや言語機能等の評価ができる。 ②聴覚障害者・児の問題点に対して、適切な指導・訓練を立案できる。 ③補聴器や人工内耳等の聴覚補償機器について理解し、説明できる。</p> <p>実務経験： 2006年～2015年まで耳鼻咽喉科クリニック、総合病院耳鼻咽喉科に所属。2015年以降も非常勤で総合病院耳鼻咽喉科に勤務している。 聴覚障害児への言語訓練、聴覚障害者・児に補聴器や人工内耳の調整等のリハビリテーションを行っている経験を活かして、実際の評価や訓練に関わる授業を実施する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害、補聴器、人工内耳等の概要 2. 聴覚障害者・児の評価、訓練の概要 3. 聴覚障害者の評価演習① 4. 聴覚障害者の訓練立案演習① 5. 聴覚障害者の評価演習② 6. 聴覚障害者の訓練立案演習② 7. 聴覚障害児に対する訓練概要 8. 聴覚障害児の評価演習① 9. 聴覚障害児の訓練立案演習① 10. 聴覚障害児の評価演習② 11. 聴覚障害児の訓練立案演習② 12. 聴覚障害児の評価演習③ 13. 聴覚障害児の訓練立案演習③ 14. 評価・訓練のまとめ 15. 解説・まとめ 		
準備学習	聴覚障害、聴覚補償機器についてこれまでに学習した知識を整理し、確認しておくこと。授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習(パソコン、プロジェクターなど)		
成績評価の方法	定期試験80% 演習課題・レポート20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	聴覚障害や聴覚補償機器などの知識をもとに、臨床場面での評価・訓練を想定した演習を行います。グループワークが中心になりますので、臨床場面や実際の患者様を具体的にイメージして、できるだけ積極的に議論に参加し、課題に取り組んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基準)	専門分野
授業科目名	言語発達障害Ⅲ(自閉症)	担当 教 官 名	竹内真理子
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	自閉スペクトラム症、診断基準、自閉症スペクトラム指数、心の理論、介入・支援方法		
授業の概要 及び到達目標	<p>「自閉スペクトラム症」について、その診断基準と最近の研究動向及びその成果を見ていき理解を深めていく。さまざまな自閉症児・者の臨床事例を通して、その症状の特徴を理解し、さらに有効な介入・支援の方法を考え、実践できるようにしていく。また、自閉症児・者と関わる人たち(家族、保育者、学校の先生など)への理解、支援や連携を事例を通して考えていく。</p> <p>* 実務経験: 病院、相談施設等で30年以上の実務経験があり、発達障害、自閉スペクトラム症の子どもたちの臨床及び子どもと関わる方たちとの連携、支援に携わっている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自閉症事例「たっちゃん」の紹介。第一章古典的自閉症とアスペルガー症候群 2. 診断と診断基準 DSM-5とICD-10 3. 第二章カナー、アスペルガー、ウイングについて 4. 第三章自閉症スペクトラム指数(AQ) 事例紹介: 東田直樹氏 5. 東田直樹氏 DVD「君がぼくの息子について教えてくれたこと」供覧 6. 第四章診断について 7. 第五章自閉症とアスペルガー症候群の心理学(1) 事例: こうくん 8. 第五章自閉症とアスペルガー症候群の心理学(2) 事例: こうくん 9. 第六章自閉症とアスペルガー症候群の生物学(1) 事例: こうくん 10. 第六章自閉症とアスペルガー症候群の生物学(2) 11. 第六章自閉症とアスペルガー症候群の生物学(3) 12. 第七章介入、教育、治療 13. 自閉スペクトラム症の人たちの世界を考える 紹介 14. 本田秀夫著「自閉スペクトラム症の理解と支援」紹介 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	「自閉症スペクトラム入門」中央法規		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	自閉スペクトラム症の様々な事例を提示し、その共通点と相違点を見ていきます。その多様性を理解し、介入、支援を考えながら、彼らを取り巻く環境改善への取り組みなども考慮し、彼らへの理解を深めていって欲しいです。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	言語発達障害IV(学習障害)	担当 教 官 名	小山 正
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	学習症 定型発達 言語発達障害の評価と支援 読み理解の障害 発達理論		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業の概要>本講義では、言語発達に関する最近の研究を紹介しながら、言語発達障害やその評価・訓練について理解を深めていきます。特に学習症、発達性言語障害(DLD)、発達障害をもつ子どもの言語発達、読み書きの問題を取り上げ、言語発達支援、言語指導の基本を学びます。</p> <p><到達目標>1. 子どもの言語発達過程における非定型性について述べるができる。2. 学習症、発達障害をもつ子どもへの言語発達支援について系統立てて述べるができる。</p> <p>なお、この科目の担当者は児童相談所、児童福祉センター療育部門での心理判定員として9年間の実務経験がある教員です。大学においては研究と並行して臨床を行なっています。療育現場での言語発達障害の事例について言及しながら学びを深めていきます。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 発達障害とは、学習症とは: 定型発達と非定型発達</p> <p>第2回 ことばの遅れと学習症</p> <p>第3回 早期対応1: 前言語的発達とその評価・支援</p> <p>第4回 早期対応2: 象徴機能の発達とその障害や評価・支援</p> <p>第5回 言語学習の認知的基盤</p> <p>第6回 語彙獲得の基盤となる認知発達とその支援</p> <p>第7回 発達性言語障害</p> <p>第8回 統語、語結合の発達とその支援</p> <p>第9回 他者の心の理解の発達と言語学習</p> <p>第10回 読み・書きのレディネス</p> <p>第11回 読み理解の障害の評価とその支援</p> <p>第12回 保護者への支援</p> <p>第13回 言語と思考</p> <p>第14回 発達理論と臨床</p> <p>第15回 全体のまとめと振り返り</p>		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	テキスト: 小山 正著 『言語発達』 ナカニシヤ出版, 2018年		
授業の形式 教育機器の活用	講義演習。講義は、テキスト、パワーポイント、配布資料を用いて行います。		
成績評価の方法	学期末テスト(100%)によって評価します。		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	テキスト、配布資料を基に、復習をし、疑問点は授業時にご質問をお願いします。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	構音障害(口蓋裂)	担当教官名	藤原百合
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	器質性構音障害、口蓋裂、鼻咽腔閉鎖機能、開鼻声、特異な構音操作による音の誤り		
授業の概要 及び到達目標	<p>器質性構音障害(口蓋裂)について、発話の特徴およびその要因を知り、口蓋裂治療チームにおける言語聴覚士の役割を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>①口蓋裂に伴う障害の概要を説明できる。</p> <p>②鼻咽腔閉鎖機能や構音の評価方法を理解し、模擬的に実施できる。</p> <p>③評価に基づいて治療計画を立案し、説明することができる。</p> <p>④特異な構音障害に対する訓練方法を理解し、模擬的に実施できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 器質性構音障害の定義・分類 2. 口蓋裂に関する基礎的知識、関連障害 3. 口蓋裂に伴う発話障害の特徴(発声・共鳴・構音) 4. 発話の聴覚的評価(演習) 5. 口腔顔面の形態・機能の評価 6. 機器を用いた評価(鼻咽腔閉鎖機能、構音機能) 7. 器質的異常に対する外科的、歯科補綴的治療 8. 言語治療:機能訓練 9. 言語治療:構音訓練 10. 口蓋裂に伴うその他の問題(哺乳・離乳、発達、聴力、心理社会的問題) 11. チーム医療、経年的対応の変化 12. 症例検討(年齢別の対応) 13. 症例検討(聴覚的評価から治療方針を考える) 14. 国家試験過去問解説 15. まとめ 		
準備学習	事前に資料を配布するので授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	筆記試験90% 演習10%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	口蓋裂のある人たちの状況をよく理解し、全人的治療を目指す姿勢を養ってください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	構音障害(口腔中咽頭癌)	担当 教 官 名	高ノ原 恭子
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	器質性構音障害・がんのリハビリテーション		
授業の概要 及び到達目標	<p>【概要】本講義では頭頸部腫瘍とその切除に伴う器質性構音障害を扱う。構造上の異常を修復するための外科的方法と歯科補綴治療、構音の評価、構音訓練の基本的な方法を解説する。演習では、構音の評価、形態異常の記録法、訓練プログラムの立案などについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】口腔癌の構音障害・摂食嚥下障害を理解し、評価・訓練の立案ができる。上・中咽頭癌の摂食嚥下障害を理解し、評価・訓練の立案ができる。気管切開と各種カニューレの仕組みが理解できる。喉頭全摘の病態を理解し、コミュニケーション手段の説明ができる。</p> <p>【実務経験】総合病院で20年以上の実務経験があり、主に構音障害・失語・高次脳機能障害・摂食嚥下障害・音声障害に対するリハビリテーションに携わってきた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・耳鼻科系疾患の復習 2. 癌のリハビリテーションの特徴 3. 頭頸部癌の種類とその特徴 4. 口腔癌の特性と医学的治療 5. 中咽頭癌の特性と医学的治療 6. 頭部の構造と神経支配の復習 7. 口腔癌の構音障害1(特徴・検査・評価) 8. 口腔癌の構音障害2(特徴・検査・評価) レポート課題 9. 構音訓練の立案と実施 10. 発話補助手段(PAP・補綴的手段について) 11. 口腔癌・中咽頭癌の摂食嚥下障害1 12. 口腔癌・中咽頭癌の摂食嚥下障害2 13. 気管切開とカニューレ・喉頭摘出後のコミュニケーション手段 14. チームアプローチ・症例呈示 15. 癌患者の心理的問題・文献講読・まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	「口腔・中咽頭がんのリハビリテーション」医歯薬出版株式会社・授業配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	レポート20%・定期試験80%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	癌のリハビリテーションは言語聴覚士がかかわる重要な領域のひとつである。ただ機能面や障害に目を向けるだけでなく、癌患者の切実な想いに寄り添えるよう、真摯な態度で授業に臨むことを希望する。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	構音障害Ⅱ	担当教官名	高ノ原 恭子
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	運動障害性構音障害、評価法、訓練法		
授業の概要 及び到達目標	<p>【概要】構音障害Ⅰの学習をさらに発展させ、検査の実施・検査結果の解釈・訓練プログラムの立案と実施を中心に学習する。</p> <p>【到達目標】神経・筋系の病態を理解し、対象者の障害特徴に応じた評価法の選択とその実施ができる。評価結果の適切な解釈とそれに基づいたリハビリテーションプログラムの立案・実施ができる。</p> <p>【実務経験】総合病院で20年以上の実務経験があり、主に構音障害・失語・高次脳機能障害・摂食嚥下障害・音声障害に対するリハビリテーションに携わってきた</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動障害性構音障害の定義・治療アプローチの分類 2. 運動障害性構音障害の特徴・原因疾患 3. 呼吸機能・発声機能へのアプローチ 4. 鼻咽腔閉鎖機能・口腔構音機能へのアプローチ 5. 発話速度の調整法・AACアプローチ 6. タイプごとの病態特徴 7. 評価法講義・演習 8. 評価法演習①(AMSD・SLTA-ST) 9. 評価法演習②(AMSD・SLTA-ST) 10. 訓練法立案 11. 訓練法演習① 12. 訓練法演習② 13. 訓練法演習③ 14. 事例検討 15. 全体まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	ディサースリア臨床標準テキスト 医歯薬出版 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学〔第3版〕 医学書院		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	レポート20%・定期試験80%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	評価法の結果から問題点・プログラムを立案し実施する為には、1年次での呼吸・発声・発語器官の知識も必要となる。1年次の復習もしておくことを希望する。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分 (基専)	専門
授業科目名	失語症Ⅲ	担 当 教 官 名	木村奈緒
対 象 学 生	2年生	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	失語症 失語症の言語治療		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要:言語聴覚士にとって、失語症は接する機会の多い障害である。評価・訓練はもちろん、失語症者や周囲の人達への働きかけなども求められる。また、急性期から維持期まで全ての時期にわたっての介入が必要となる。失語症学Ⅲでは、失語症の言語治療の枠組みに始まり、各病期に必要な言語治療内容、治療の理論や方法、計画の立て方について説明する。</p> <p>実務者経験:一般病院で28年間、急性期から維持期にわたって失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害に対するリハビリテーションに携わった。</p> <p>到達目標:①失語症の言語治療の枠組みや治療の理論や方法について説明できる。 ②各病期に必要な言語治療内容や訓練の立て方についての知識を身につける。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 言語訓練の枠組み 各期の訓練・援助 2. 言語訓練の理論と技法① 3. 言語訓練の理論と技法② 4. 言語訓練の理論と技法③ 5. 言語訓練の理論と技法④ 6. 訓練① 7. 訓練② 8. コミュニケーションの取り方 9. 失語症者とのコミュニケーション 10. 訓練③ 11. 訓練④ 12. 訓練⑤ 13. 訓練計画① 14. 訓練計画② 15. 全体まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。授業の最後に復習シートを配布し提出。次の回に返却。成績には加味しませんが自身の復習に役立てて下さい。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 失語症学(第3版) 医学書院 監修 藤田郁代		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	小テスト(2回)20% 定期試験80%		
担当教官から 履修に当たっての留意点	1年生で学んだ失語症学Ⅰ・Ⅱの知識をもとに、失語症の方にどのように援助をするか、演習も予定した授業内容となります。実習にはもちろん、STとして従事してからも必要な知識ですので、十分に理解することが重要です。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	社会保障制度	担当 教 官 名	和泉 亮
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	社会福祉 共生社会 ノーマライゼーション 基本的人権		
授業の概要 及び到達目標	<p>社会保障制度は、私たちが、憲法で保障する「健康で文化的な生活」を送るために必要不可欠なものです。医療や社会福祉も、社会保障制度に含まれます。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進めていきます。</p> <p>①患者の在宅生活を支える社会福祉制度を理解し、説明できる。 ②医療や社会福祉に共通する対人援助の考え方を理解し、実践できる。 ③対人援助技術を理解し、実践できる。</p> <p>実務者経験:精神障害者通所授産施設の生活支援員、精神科クリニックソーシャルワーカー、就労移行支援事業所の管理者兼サービス管理責任者などの経歴をへて、現在はフリーランスのソーシャルワーカーとしてフクシのみらいデザイン研究所を設立。研修講師、映像制作などを行う。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障、社会福祉とは何か 2. 社会保障、社会福祉の歴史 3. 行財政と法律 4. 公的扶助、生活保護制度 5. 児童福祉とインクルーシブ教育 6. ソーシャルワークとは何か 7. 対人援助技術と実践事例① 8. 対人援助技術と実践事例② 9. 障害者福祉① 10. 障害者福祉② 11. 障害者福祉③ 12. 高齢者福祉と介護保険 13. 地域福祉の推進と地域共生社会 14. 総論、まとめ 15. 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	各授業ごとにレジュメを配布		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パワーポイントを使用する)		
成績評価の方法	期末試験の成績(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>社会保障、社会福祉について学ぶことは国家試験に向けた知識を得るというだけではなく我々が生きる社会のことを理解するうえでとても大切なことです。幅広くニュースや世界の出来事に興味を持ち、情報収集をする姿勢を大切にしてください。資格取得に関係する事柄はもちろん、それ以外でもYouTubeやTwitterといったメディアも積極的に活用し、主体的に世界と接点を持ち学ぶ姿勢と、その事象に対しての自分なりの意見を持つことを意識してください。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	小児聴覚障害Ⅱ	担当教官名	水野遼平
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	小児聴覚障害		
授業の概要 及び到達目標	<p>本講義は、新生児・乳幼児の難聴に関する聴覚生理学や小児聴力検査、補聴器や人工内耳に加えて、乳幼児の療育や学校教育などの内容を取り上げる。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①早期発見・早期支援の重要性について理解し、説明できる。 ②補聴器や人工内耳など補聴支援機器について理解し、説明できる。 ③本講義の知識を利用して、小児聴覚障害児の対応を考えることができる。</p> <p>実務者経験:教育機関で10年以上の実務経験あり。新生児から大学生までの聴覚障害児の補聴器フィッティングや教育相談に携わっていた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 聞こえの仕組みと難聴の種類 2. 聴覚障害児の聞こえ 3. 新生児聴覚スクリーニング① 4. 新生児聴覚スクリーニング② 5. 小児聴覚検査① 6. 小児聴覚検査② 7. 小児補聴器フィッティング① 8. 小児補聴器フィッティング② 9. 補聴援助システム① 10. 補聴援助システム② 11. 聴覚障害児の指導・支援 12. 聴覚障害児の指導・支援 13. 小児聴覚障害に関わる福祉制度 14. 小児聴覚障害臨床例検討会① 15. 小児聴覚障害臨床例検討会② 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第3版(医学書院)		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験(前期1回)100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	聴覚障害を理解するうえで耳鼻咽喉科学の知識は欠かせません。本講義では国家試験に対応するための知識だけでなく、なるべく臨床に役立つ知識もお話したいと考えています。臨床をイメージして授業に積極的に取り組んで下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	人工内耳	担 当 教 官 名	山本典生
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	人工内耳、マッピング、人工中耳、植込型骨導補聴器		
授業の概要 及び到達目標	<p>本講義では、高度あるいは重度感音難聴治療として近年広く行われている人工内耳医療について、その原理、適応、手術法、術後の機器調整方法、最近の話題などについて講義を行う。また、本邦において保険適応となっている人工内耳以外の人工聴覚器についても概論を講義する。</p> <p>人工内耳・人工聴覚器について、患者に質問された時に適切に説明できるレベルの知識を身につけることが目標である。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人工内耳概論1 2. 人工内耳概論2 3. 人工内耳手術1 4. 人工内耳手術2 5. マッピングと人工内耳の成績1 6. マッピングと人工内耳の成績2 7. 人工内耳最近のトピックス 8. 人工内耳以外の人工聴覚器 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	言語聴覚士テキスト 第3版(医歯薬出版 ISBN978-4-263-26560-4)		
授業の形式 教育機器の活用	講義 (パソコン, プロジェクター, スピーカーなど)		
成績評価の方法	定期試験(100%)		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	これまでの聴覚・補聴器などの講義の内容を十分理解したうえで受講のこと		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	生涯発達心理学Ⅱ	担当教官名	山村裕大
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	ライフサイクル、アイデンティティ、中年期危機		
授業の概要 及び到達目標	生涯発達心理学において、思春期、青年期は1年生後期で学んできた乳児～児童期の発達が結実する時期でもあります。一方で、成人期、中年期を経て、老年期では老化による心身の衰えに直面することとなります。この授業では、①思春期から老年期までの発達に関する基本的な知識を体系的に習得するとともに、②生涯発達の見方や考え方について身につけていただきます。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯発達心理学とは 2. 思春期① 3. 思春期② 4. 思春期③ 5. 青年期① 6. 青年期② 7. 青年期③ 8. 青年期④ 9. 成人期① 10. 成人期② 11. 中年期① 12. 中年期② 13. 老年期① 14. 老年期② 15. 授業のまとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	配布資料(参考文献などは授業内で適宜紹介します)		
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン、プロジェクター、検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	生涯発達心理学を学ぶことは、現場で関わる患者さんだけでなく、自分自身について理解を深めることにも繋がります。ぜひ、自身のこれまでの経験やこれからの展望にも思いを巡らせながら理解を深めていただければと思います。		

2024 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)	専門
授業科目名	嚥下障害Ⅱ(小児・成人)	担 当 教 官 名	深見真由
対象学生	2年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	嚥下障害 誤嚥 不顕性誤嚥 スクリーニング検査 嚥下訓練		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要 1年生で学んだ摂食嚥下障害の基礎をもとに、実習やその後の臨床に役立つ知識の整理・技術の習得、記録のまとめ方、考察ができるようになることを目指す。また、国試に必要な知識は確実に理解・暗記していく。</p> <p>到達目標 嚥下障害の特徴を理解し、正しい評価法が理解できる。</p> <p>実務経験 神経難病・急性期・回復期病棟で勤務。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習(神経・筋) 2. 検査・評価(成人) 3. 検査・評価(成人) 4. 治療・訓練(成人) 5. 治療・訓練(成人) 6. リスク管理と対策 7. 事例検討 8. 事例検討 9. 訓練・治療の実施上の留意点(食事形態・水分形態など) 10. 訓練・治療の実施上の留意点(姿勢・食事介助など) 11. 評価・治療・訓練(小児) 12. 評価・治療・訓練(小児) 13. 事例検討(情報収集～評価・訓練) 14. 事例検討(情報収集～評価・訓練) 15. まとめ 		
準備学習	授業前後には予習・復習を行うこと。		
教科書・教材等	「摂食嚥下障害のリハビリテーション 第3版」医歯薬出版 才藤栄一		
授業の形式 教育機器の活用	講義・演習 (パソコン, プロジェクター, 検査機器など)		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	実習・臨床・国試に繋がっていく授業なので、基礎知識の確認をしながら積極的に取り組んでください。		

学 科	言語聴覚科	授業科目区分(基専)		専門分野	
授業科目名	補聴器	担当教官名	佐藤愛子		
対象学生	2年生	履修学期	前期		
必修・選択の別	必修	授業回数	8回		
授業のキーワード	補聴器				
授業の概要 及び到達目標	<p>補聴器について、難聴者と周囲の方々へ正しく補聴器の効果と限界を説明できる。難聴の程度、年齢、生活環境など、難聴者お一人お一人に応じた適切な補聴器の適応決定、機種選択、調整、評価、リハビリテーション方法を学び、言語聴覚士として必要な知識を習得し、その心構えを持つことが出来る。</p> <p>*実務経験: 認定補聴器専門店で勤務し、聴力検査、補聴器調整、耳型採取、補聴器修理、難聴者とその家族への相談援助業務等、補聴器フッティング業務全般の経験をもつ。現在は言語聴覚士として、耳鼻咽喉科医院で聴力検査、補聴器相談に従事している。</p>				
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 補聴器適用を学ぶために基礎となる知識 2. 補聴器の機能と構造、種類について 3. 補聴器調整についての基本事項 4. 補聴器特性測定 5. 演習(補聴器の調整・補聴器装用決定に必要な聴力検査) 6. デジタル補聴器のしくみと機能 7. 補聴器適合検査 8. 補聴器援助の実際～事例を用いて～ 				
準備学習	聴覚分野で学習した内容の復習				
教科書・教材等	『補聴器のフッティングと適用の考え方』 診断と治療社				
授業の形式 教育機器の活用	講義(パソコン, プロジェクター) 演習(補聴器, 補聴器特性測定器, オージオメータ)				
成績評価の方法	定期試験100%				
担当教官から 履修に当たっての留意点	本科目の教科書と、今までに受けた聴覚分野の講義で使用した教科書も使いながら復習してください。				